

2019.5.25-26
SUZUKA

Round
03

final

ベテランの粘りと若手の鋭い速さ その融合が今シーズン2勝目に結実



AUTOBACS SUPER GT 2019 第3戦の決勝レースが5月26日(日)、快晴の鈴鹿サーキットで開催されました。K-tunes Racingは予選2位を獲得、上位入賞への期待を膨らませ、決勝レースに望みました。

レースウィークは気温上昇が確実視されていたこともあり、タイヤ選択を含めマシンのセッティングは進んでいました。そもそも鈴鹿サーキットとマシンの相性は悪くありません。昨年の優勝に続いての鈴鹿2連覇という可能性もありました。

スタートドライバーはベテラン新田守男選手が担当しました。スタートはクリーンに決まり、ポールポジションを獲得した#25松井孝允/佐藤公哉組、予選3位の#5坂口夏月/平本湧也組とともに、3台でトップグループを形成。順位の入れ代わりはありませんでしたが、新田守男選手は粘り強くプレッシャーをかけ続け、周回は進んでいきました。

17周目、GT500のマシンのクラッシュによりセーフティカーが入ります。そのセーフティカーが外れた21周目、#25はピットイン、タイヤ無交換でドライバー交代を行いました。





#96新田守男選手は24周目にピットイン、タイヤ4本交換と阪口晴南選手へ交代しました。チームは無駄なくピットワークを行い、タイヤ無交換の#25に対して、タイヤ4本を交換したにも関わらず、わずか17秒差でコースに復帰させました。

そこからは阪口晴南選手の独壇場です。ただ一人、2分01秒台のラップタイムを刻み続け、1周2秒近く差を詰めていきました。3位のマシンも離れていき、#25松井孝允選手とのマッチレースとなりました。そして41周目、タイヤ無交換作戦でラップタイムが苦しくなる一方の#25松井孝允選手をデグナーへの進入で捕らえ、トップに立ちました。

その後は、そのままの勢いでギャップを拡げ、最後にはペースダウンする余裕を見せて、トップチェッカーを受けました。今シーズン2勝目、シリーズランキングもトップへと返り咲くことができました。次戦、シーズン第4戦は6月29日(土)~30日(日)、唯一の海外開催となるタイのチャン・インターナショナル・サーキットで行われます。



2019 AUTOBACS SUPER GT Round3 SUZUKA GT 300km RACE

鈴鹿サーキット

2019年5月26日 天候：晴れ 路面：Dry

final

Po	No	Machine	Driver	Laps	Best Lap	Diff.(sec)	Tire	WH
1	96	K-tunes RC F GT3 LEXUS RC F GT3 / 2UR-GSE	新田 守男 阪口 晴南	49	2'00.768	1:48'35.123	BS	20
2	5	ADVICS マッハ車検 86MC マッハ号 TOYOTA 86MC / GTA V8	坂口 夏月 平木 湧也	49	2'01.400	23.005	YH	
3	61	SUBARU BRZ R&D SPORT SUBARU BRZ GT300 / EJ20	井口 卓人 山内 英輝	49	2'00.843	23.939	DL	8
4	4	グッドスマイル 初音みく AMG Mercedes AMG GT3 / M159	谷口 信輝 片岡 龍也	49	2'01.451	25.031	YH	13
5	25	HOPPY 86 MC TOYOTA 86MC / GTA V8	松井 孝允 佐藤 公哉	49	2'00.237	32.344	YH	

ファステストラップ：2'00.237 No.25 HOPPY 86 MC / 佐藤 公哉

監督・選手コメント



Team Director
影山正彦

©GTA

第2戦をチームの戦略ミスで落としてしまっていたので、そのリベンジができて、ほっとしています。これからウエイトも増えて厳しくなりますが、この先は、コンスタントに上位入賞を狙って、ポイントを重ねたいですね。



Driver
阪口晴南

©GTA

新田選手が粘り強い走りで2位でつなげてもらったので、何とか結果につなげられて、とても嬉しいです。開幕戦は何が何だか判らないうちに優勝していましたが、自分でトップチェッカーを受けられて本当に嬉しいです。

